

会 議 録

会 議 の 名 称	第 6 回 環境審議会みどりの基本計画策定部会（第11期）		
開 催 日 時	平成29年（2017年）5月 12日（金） 18時00分～20時15分		
開 催 場 所	公園管理事務所会議室（大門公園内）	公 開 の 可 否	○可・不可・一部不可
事 務 局	環境部 公園みどり推進課 環境部 環境政策課	傍 聴 者 数	1 人
公開しなかつた理由			
出席者	委 員	田中晃代委員、上甫木委員、吉村委員、野村委員、廣田委員	
	事 務 局	河本環境部長、井藤環境部次長兼環境政策課長 中村公園みどり推進課長、三川主幹、樋上課長補佐、細貝主査、梅田技能主任 松本課長補佐	
	そ の 他	株式会社プレック研究所（委託事業者）	
議 題	1. 第 2 次豊中市みどりの基本計画の策定について (1)平成 2 9 年度策定スケジュールについて (2)第 5 回策定部会の意見を踏まえた修正について (3)計画素案（全体）の確認について 2. その他		
審議等の概要 (主な発言要旨)	別紙のとおり		

議 事 内 容

○部会長

それでは、次第に沿って議事を進めます。

策定スケジュール

1. 第2次豊中市みどりの基本計画の策定について

(1) 平成29年度策定スケジュールについて

事務局より資料1について説明

○部会長

スケジュールについて説明いただきましたが、ご意見などありますか。

○委員

市民説明会の開催について、告知の方法や想定している人数について教えてください。

○事務局

告知は、広報誌と市のホームページへの掲載を行います。実際に何名が来られるかは不明であり、具体的な想定人数はありませんが、各回40～50名が入れる会場を用意しています。

○委員

なるべく多くの市民が参加できるように告知をしていただきたい。チラシは作らないのでしょうか。

○事務局

チラシも作ります。また、議会にも情報提供を行い、参加者を募ります。

○委員

チラシは施設に置くのでしょうか。

○事務局

公共施設等に置く予定です。

○委員

自治会や環境団体などに直接チラシを配り広めることは考えているのでしょうか。

○事務局

現段階では自治会等を通した広報は考えていません。

○部会長

チラシの枚数はどの程度を予定しているのですか。

○事務局

各公共施設に20枚程度設置するので、全体で一千枚程と想定しています。

○委員

本計画に特に関わりの深い地域、後半に具体的な地域名が記載されている自治会への個別のアナウンスはしないのでしょうか。

○部会長

それはとても大事なことだと思います。

○委員

チラシの配布枚数に問題が無ければ、もう少しきめ細かに配布していけると良いと思います。それが可能かどうかは定かではありませんが、できるのであれば実施するのが好ましい。

○部会長

他に何かご意見はありますか。

市民説明会後にすぐパブリックコメントの準備をするスケジュールですが、１１月からパブリックコメントを実施するということですか。

○事務局

はい。

○部会長

パブリックコメントも決まった人ばかりが意見を言うのではなく、できるだけ多い人に意見を言っていたきたいと思います。みどりの基本計画ですので、大きく反対という意見はないかと思いますが、本市にはみどりについてこだわりのある市民が多いので、パブリックコメントの意見がたくさんでるような工夫がいるかもしれません。委員から、良い方法があれば情報提供していただきたいと思います。

○事務局

部会長が言われるとおり、我々も計画策定前から市民アンケートを実施して、市民意見収集に取り組んできました。パブリックコメントのみで済ませることもできるのですが、さらに市民説明会を開催することや策定部会に市民委員の参加をお願いして、市民意見を反映させるように努めています。部会長のご意見を踏まえながら、今後も進めていきたいと思っています。

○委員

そのプロセスは評価しています。パブリックコメントだけではなくて市民説明会でさらに広めていくとのことなので、パブリックコメントよりもしっかりと市民説明会の段階で意見をたくさん拾えたと、当初の考え方にも合致して良いと思います。

○部会長

各地の公民館で説明会を開催するのは良い事と思います。

他に意見がありますか。特にないようであれば、スケジュールはこのように進めていくことでお願いします。

(2) 第５回策定部会の意見を踏まえた修正について

資料２について事務局より説明

○部会長

それでは、資料２について、ご意見があればお願いします。説明があった内容について順番に見ていきたいと思っています。

○委員

１点気になるところがあります。１番目のモニター指標の説明を追記すべきという意見に対して、第３章の６４ページにモニター指標という言葉が追記されていますが、モニター指標が何かについて書かれていません。モニター指標が何かというのは、第６章のＰＤＣＡのページでようやく出てきます。６７ページの計画目標の後で、モニター指標が何かというのを、１５０ページに書かれているような内容を入れると良いと思います。

○事務局

今回は載せていませんが、前回のご指摘も受けて、資料編にモニター指標の具体的な一覧を掲載しようと検討中です。委員からのご意見に対応して、この本文中にも文書の追加を検討していきたいと思っています。

○委員

意見対応表の７番、重点施策は原案のとおりとする説明でしたが、「みどりに関するイベントの開催」を重点施策とするのであれば、今までのイベントと何が違うのか示す必要があります。参加人数の増加が目標値になっているから、重点施策にするのではないはずですが。９６ページの詳細施策「みどりに関するイベントの開催」の項目に、「環境への関心を高めるためのイベントを開催する」などの、新たに取り組むべき内容を書き込む必要があります。

また、ここに関連して、「みどりに関するイベントの開催」について９７ページの重点施策の枠の中に書いてある「みどりに関する各種イベントを開催し、その場において多様な情報を発信する取り組みとして推進します。」という文書と９６ページの詳細施策に示した「みどりに関する普及啓発に努めます。」という文書の内容が異なります。どちらの書き方が良いのか、今は判

断できませんが、ここの整合を図るべきだと思います。

また、64ページに示している目標値のイベント参加者数は、豊中市の主催イベントに限るのか、それとも市民団体などの主催イベントも含めるのか、どの範疇でとらえていくのかもう少し明確に示した方が良いでしょう。

○部会長

みどりに関するイベントの開催に関する説明をもう少し踏み込んで示す方が良いでしょうのご意見でしょうか。

○委員

そうです。1つは、文章表現を合わせたら良いということですが、重点施策としていくならば、イベントについてどのように強化するのか、もう一步踏み込んでほしいということです。

○部会長

次のご意見のみどりのイベントの参加者数については、豊中市の主催イベントに限るのか、主催者を限定しないのか、注釈がいるということでしょうか。

○委員

そうです。市主催に限るのか市民主催も含むのかで目標値の妥当性も変わると考えます。また、例えば市民団体主催のイベントの参加者数も含めるのであれば、43番の具体施策の書き方は、地域活動の支援にまで踏み込むべきだと思います。

○委員

事務局がイベントの開催を重点施策に取り上げたのは、イベント開催そのものに力を注ぐということなのではないでしょうか。これまでやってきたイベントも中身を充実させていく、回数を増やしていく等、啓発活動そのものに力を入れるとの意味で書かれていると理解しましたが、委員はイベントについて、質が高まっていくことに充実を図るように絞り込む必要があると言われているのでしょうか。

○委員

前は、ほかにも多様な施策がある中で、あえてイベントの実施を重点施策に取り上げることはないと考えて他の施策を重点施策にすると良いと発言しました。今日の事務局の説明では、やはり参加者数という目標もあるためイベント開催を重点施策としていくとの回答でした。それならば、重点施策として相応の取り組み方針を書くべきではないかと思い、今日の発言に至りました。

○委員

イベントの中身の話を議論しようとしているのですか。

○委員

96ページの43番の解説を読むと、今の実施内容と変化がないようなので、これで重点施策といえるのかということです。

○委員

これを強化していきたいという話ではないのですか。

○委員

重点施策であればどう強化していくのかを書き込むべきです。様々な施策がある中で、この施策を重点施策に推したいだけの内容がどこに示されているのかが分らないです。

○委員

それでは、重点施策として「みどりに関するイベントの開催」の他に、どの施策が適切であるという提案型の発言をしていただく方が早いと思います。

○委員

拡充するものや新規の施策から選ぶのが良いと考えます。93ページの29番「長期未整備公園・緑地の見直し」などです。

○事務局

重点施策にどのようなものを挙げるかという議論が若干不足しているのでないかと思います。97ページに重点施策に挙げるものについて文書で示しています。市民参加や市民との協働による施策、新たにもし

くは前計画から拡充した内容で本計画に位置付ける施策、本計画の目標達成に効果の高い施策の3点を示しており、この3つ目に応じて「みどりに関するイベントの開催」を挙げているので、必ずしも新たな施策や拡充する施策を重点施策にしているのではないということをご理解いただきたい。

委員がおっしゃるように、拡充や新規施策も重点施策ですが、イベントの開催は効果があると思い重点施策にしています。取組み内容については、「内容を充実させながら」などといった書き方もできると思います。しかし、どこまで踏み込んで書けるかは、今のご意見も踏まえながら検討、工夫をしていきたいと考えます。

○委員

過去のイベントの開催の取組みに手ごたえを感じているということでしょうか。

○事務局

そうです。みどりに関するイベントには年間で1万4千人に参加していただいています。

イベント参加者数は、実際に市民や事業者さんの取組みも指標として集計に入りたいのですが、全ての情報を集めるのは難しく、今後の課題だと考えます。このため、そういった考えが読み取れるように、64ページの目標設定の考え方などを書き換えることなども検討が必要かと思います。

○委員

そういう意味では、43番は単に普及啓発に留まらずに、みどりに関する人づくり、人材育成にも踏み込んだ表現ができればわかりやすいと思います。みどりに関わる人を増やしていくとの意味があるということや43番や44番に入れたら良いと思います。先ほどの委員の何が重点施策なのかとの疑問にも答える形になると思います。

○委員

事務局の先ほどご説明で年間1万4千人に参加人数があったとのことですが、イベントに人数を集めるのは非常に大変なので、ただ開催する、普及啓発に努めるという単純なものではないと思います。そこは回数なのか質なのか、何らか事務局の考えを示していただくとやはり重点施策だと納得できます。

○事務局

ご意見を踏まえて検討させていただきます。

○部会長

他にも重点的な施策についてご意見がありましたらお願いします。

前回、私の印象に残っているのは、委員からのご意見でみどり率と緑被率の表現の仕方についてです。目標設定はみどり率、緑被率と順番に出てきているのですが、目標値の考え方では、緑被率を先に示して、その次にみどり率について考え方を示しています。これについてはいかがでしょうか。

○委員

今、部会長が説明された内容については、特に問題ないと思います。

○部会長

他に印象に残っているのが、15番、16番の地域別の方針について、フレーズがたくさん出てきてわかりにくいのご意見があったと思います。委員と委員がおっしゃっていたところですが、お二人のご意見はいかがでしょう。

○委員

地域別の将来イメージにキャッチフレーズがありましたが、これを文書に変更したのは良いと思います。110ページの図にフレーズをまとめて示したのも、全体の構想が分かるので良いと思います。

○委員

ここは前より良いと思いますが、これがより良い形かどうかは不明です。例えば110ページの図も前の図と比較をすると良いと思いますが、これだけを初めてみた時に理解できるかと思うと、フレーズをなくした方が良いとも考えられます。これは言い出したらきりがいいことなので積極的な発言は避けていました。難しいと思います。

○委員

キャッチフレーズという雰囲気が何となく薄くなったので良かったと思います。各地区の目標や方向性が少し出されているのは良いかと思います。

○部会長

他の委員の方もご意見があったらお願いします。委員や委員はいかがでしょう。

○委員

今、委員が言われたように、図28は、各地域の状況が一目でわかりやすいと思います。しかし、委員が言われるように、これが正しいかどうかは難しい問題です。

○部会長

他にご意見があればお願いします。第6章のところはいかがでしょう。

○委員

特にありません。

○部会長

では、特に問題ないということでよろしいでしょうか。

○委員

結構です。

(3) 計画素案（全体）の確認について

資料3について事務局より説明

○部会長

説明があった内容について、意見があればお願いします。

46ページの生物多様性の追加について委員からは問題ないでしょうか。

○委員

今の時点では特にありません。

○部会長

目標値についても具体的な数値が追加されましたが、これについてご意見はございますか。公園緑地面積、公園緑地に対する満足度、イベントの参加者数の目標値が出ています。これの根拠については次のページに書かれています。

○委員

この数値は、全般に少なすぎる印象があります。

○部会長

どの数値のことでしょうか。

○委員

概してということですが、特に先ほどの重点施策のイベントの開催について、12年で2千人というのはどうなのでしょう。力を入れるにしては目標値が少なすぎると思います。12年に2千人ということは毎年150人くらい増やしていくことで、毎年1%くらいです。こういうことは数字を出す以上結果がすべてわかってしまうのであまり大きな数字は出せないのというのわかります。

○部会長

今までの経過からするとこの数値が妥当だと考えてのことです。

○委員

これが妥当かどうか分からないのですが、例えば同じように関東や関西で色々なイベントをやっていて、人口比に基づき出された数値なののでしょうか。何となくこれならいけると出した数値なののでしょうか。みどり率や緑被率は柱になる目標ですが、予算とも絡んでくるので、何を目標にするべきか難しいです。

○部会長

目標値の立て方は、過去の実績を参考に定めてきたかと思います。

○委員

過去は自然増であるため、施策がなくてもこれくらいはいくという話になってしまいます。重点施策とする以上その自然増を超える数値を持ってこない重点施策にする意味がないと思います。放っておいても毎年1%くらい増えるのではないかというのはさびしいと思います。達成しないよりは良いのかもしれませんがどうなのでしょう。

○委員

イベント参加者数について、67ページに解説がついています。過去の5年間で2千人が増えているということなら、これからの10年間の目標は4千人にしないのかと疑問に思います。

また、昔の環境基本計画のパートナーシップの目標では、市民の何%が参加するという根拠がありました。例えば40万人の1%なら4千人です。市民の5%が来たら2万人などの数値の立て方はあると思いました。

○委員

それも1つの方法だと思います。この数値は表に出して恥ずかしくないものなのでしょう。隣の箕面市はどうか、池田市はどうか、となったときに頑張っている数値なのでこれで進めていきたいと言える数値なのかが分らないです。それは残念だと思います。そういう意味では他の数値もそうです。

○委員

委員の懸念は非常によくわかります。例えば公園の面積や緑被率やみどり率は一定の基準がありますが、公園の面積などは恥ずかしくない数値だと思います。しかし、緑被率やみどり率などはみどりの基本計画などがあって、その計画のなかで基本的には30%くらいの割合をとりましよう決めたという背景がありましたが、それは自治体の立地によって、簡単に言うと田舎か都会かによってだいぶ違うので一概に言えないところがあります。豊中市は都市部にあるので結構苦戦している部分があります。一定の基準がないわけではないですが、地域特性に応じて差があります。さらに諸外国と比べると公園の割合に差があるのでそこを比べ出すと厳しいと思います。

○委員

その厳しさと埋めるのが施策だと思います。あるいは方針や考え方、行政のトップの市長がみどりの計画を頑張るという方針で当選したケースもあると思います。また、豊中市の公園が恵まれている部分もあったとして悪くない、恥ずかしくない数値だとすれば、それを維持するのも1つの施策ですし、特徴づけるためにもっと頑張るのも施策だと思います。

○委員

現状に必ずしも満足していないところも当然あります。ですので、現状からどう改善できるのかという意味でこの数値があると思います。

○委員

意図や意思が何も入っていない数値です。自然増でここまでできる数値です。

○委員

そうでしょうか。事務局から説明した方が良いと思います。例えば緑被率やみどり率は、自然増も現実的にはありますし、可能なところは保全の努力もしている一方で民間開発の圧力も当然あるので、バランスを取りながら今までのトレンドで見てどれくらい確保していくかという現実的な数値が目標値として挙げられていると思います。決して、何もしなければ良いという数値ではないと私は理解しています。

○委員

例えば、豊中市の人口をどうするのかという市の審議があると思いますが、細かい数字は忘れましたが、何年後に30か35万人くらいにしたいとの話がある一方で40万人くらいにしたいという話があって、確かその間を取って37万人くらいで落ち着いたと思います。こうありたいというものがこの数値はどうか疑問に思います。

○部会長

目標値全体というよりは、目標値の中身、満足度、イベントの参加者数などはとても不確定な要素です。相手方の意向があって市民の満足や参加するかしらないか、これはかなり相手方の意向も踏まえて考えないといけない部分です。その中できちんとした数字を出したのは良いことだと思います。

○委員

私は少ない数字を出してきたという印象を持ちました。

○部会長

ここは、今までは数字が出てきていなかったのを、出してきたことは評価できると思います。あまりにも市民側の意向がありすぎるので、単純に公園面積やみどり率などは算出した数字に基づけるとと思いますが、これについてはあえて数字を出してきただけでも評価できると思います。

○委員

確かにおっしゃるように数字を出すのはある意味難しいです。それこそ自然の姿で増えていくのと、意図的に増やしていくのではずいぶん意味が違います。

○部会長

総合的な人口の問題とこの目標値が関係しているという話はとてもよくわかります。委員が言われることもよくわかります。

○委員

公園・緑地に対する満足度の目標が58%というのも良いと思います。しかし、58%といっても4割が不満足ということになります。ここで最も高いのは78%ですから、そこまでは持っていきましょう、という設定もできると思います。一般には公園の留置権などの話もあり、8割の留置権という話はよく聞きますが、8割の人が満足するのであれば、目標値よりも高い数字がでます。

○委員

どうせなら8割くらいあった方が良いでしょう。

○委員

考え方として、直近の目標値では58%としていますが、将来的には70%、80%を目指すと思います。この10年間は最低ラインを高めることを目標に色々な方法をやってみて、そのような印象を持ってもらえるよう頑張りたいという話だと思います。58%という数字はもうすでに到達しているところもあります。そこは、より上げていかないといけないと思います。

○委員

委員のご意見を聞いてそれなら58%は目標としておくけれど長期目標も定めるのも良いと思いました。58%は豊中市が目指す最終的なゴールではないというのであれば、長期目標の満足度を設定する方法もあると思います。その具体的な数字は、今はわかりませんが、妥当な長期的な目標値を定めておけば豊中市の思うゴールは58%ではないという姿勢が示せると思います。

○部会長

長期目標値を考えているということを示した方が良いでしょうというご意見でした。

○委員

それはあっても良いでしょう。

○委員

また、事務局のこれまでの目標値全般を勘案しながら考慮するのであれば、みどりのイベント参加者数は少し足りない気がします。もう少し高い数値を設定していただいてチャレンジするくらいの数値を出しても良いでしょう。

○委員

長期目標値についてよくわからないのですが、例えば目標値が今から10年後だとすると長期目標は30年後を念頭に置いているなどの設定はあるのか、それとも人の住むところとしてこれくらいあれば良いという夢を書いているのかどちらでしょうか。

○部会長

これは事務局いかがでしょうか。

○事務局

もともと10年間の計画ですので、長期目標は置くつもりはありませんでした。最近の社会動向からい

うと社会の環境もめまぐるしく変化しているので10年後の目標値を定めてその中で進行管理をしながら10年後の改定の時に新たに目標値を示すのが良いと考えていました。しかし、みどり率や緑被率などについては過去から現在まで示してきた数値もあったので10年後に現実的な数値を置いたもののこれまで示してきた数値も考慮して長期目標をやむを得ず設定したという事情もあります。本来は10年間の計画ですので、長期目標値というものについては10年後に改めて考えるものでこの場で示すものではないという認識でやってきました。今の基本的な考え方については不十分かもしれませんが書いていますので、その辺はご理解いただきたいと思います。そこを踏まえてみどりに関するイベント参加者数は5年間というわけではありません。10年間の傾向を見た中で平均値を伸ばしたものです。数値が少ないのではないかと厳しいご意見をいただいておりますが、こういったイベントについては我々も結構なイベントを開催していると自負しています。自然増という話も出てきましたが、努力もこの数字に表れているので全く何もしなければこの数字は減っていくと思います。現状で満足するわけではありませんが、現状やっているものを維持していくということで自然増だけではないのを我々は理解しています。

○委員

自然増はさすがに違うかなと私も思います。

○委員

今の事務局の説明で1つ気になる話がありました。みどりはほとんどが屋外のイベントですので、ある大きなイベントが雨で中止になった時に変動があると思います。こういった不可抗力もあって年間変動があると思います。そう意味で事務局が平均をとっているというのはわかります。しかし、毎年数値を追っていくのですが10年後の評価はそのまま10年後の数値で良いのでしょうか。つまり、直近の3年間の平均と比較をするなどではなくて良いのでしょうか。10年間の目標を達成できたのかとなるとたまたま10年後の数値を拾って良いのか、10年後には達成できなかったけれどその直近の3年間の平均を見るとまた次元の違う話になると思います。評価に仕方としてどうなのか気になりました。

○事務局

今、言われているのは、ここ直近の3年間平均値の目標値ということでしょうか。

○委員

そうです。10年後の評価方法の話です。評価をする年が、偶然に台風ばかりで多くのイベントが中止になった場合、それまで目標値を達成していたとしても、評価をする年に目標を達成していないという話になってしまいます。先ほどの事務局の説明では、かなり努力して取り組んで、示された目標値を達成するイメージだということなので、その評価の仕方であれば、もう少し高く設定してほしいと思いました。

○部会長

計画目標の設定ではなく、10年後の評価の仕方に関するご意見でした。

○委員

例えば、評価を直近3年間の平均値で行うことも可能だと思います。今までの発想で行くと毎年的人数を示す方が理解しやすいですし簡単です。単純に10年先を考えるのであれば、それで良いと思います。

○事務局

おっしゃるように毎年結構変動があります。今、言われた点について、平成39年にイベントがたくさん中止になる可能性もあり、そこまで考えが及んでいなかったため、評価方法についても検討させていただきます。

○部会長

推移があり、社会的な動向が影響しているかなども分析する必要があるということでしょうか。

○委員

イベントは何回くらい実施しているのでしょうか。

○事務局

回数で言うと具体的な数字はすぐに出てこないのですが、100回は行っています。

○委員

1回に何人くらいが参加しているのでしょうか。

○事務局

千人や2千人規模のものから、10人程度のものまで様々です。

○委員

それは、年度計画を立てているのでしょうか。

○事務局

基本的にはそれぞれの事業レベルで計画を立てています。

○委員

1回ごとの参加者数の目標値はあるのですか。

○事務局

1回ずつというよりは年間の参加人数や回数を目標にしています。

○委員

イベント数も少しずつ増えているのですか。

○事務局

それも様々です。増えているものもありますし、ニーズに合わず参加者が減っており回数を減らしているものもあります。

○委員

参加者は、年により増減があるとのことでしたが、増減は平行なのか、伸びているのかどちらでしょうか。先ほどの委員のご意見は、評価する場合は直近の平均値を挙げた方が良いのではということだと思いますが、これまでのデータをもう少し精査して、これから人数を増やしていくのか、このままいくのか、など考えられると思います。現状でのトレンドがどうか数値で示してはいかがでしょうか。

○委員

様々な市民団体等がありますが、それらがイベントを開催したときの参加者も集計するのでしょうか。

○事務局

現在は、他の団体が開催しているイベント参加者数は集計に入れていません。

○委員

今、挙げていただいているのは市の主催のイベント参加者数のみですか。

○事務局

基本的にはそうです。もちろん共同開催もありますが、すべてのイベントの参加者を拾いきれるものではないと考えています。

○委員

意図からすると集計に入れても良いと思います。市が主催でなくてもイベントに対する認識を深めることができます。

○事務局

他の団体のイベント参加者数を入れ込むのも、今後の課題だと考えています。

○部会長

どうやって情報を集めていくのが難しいと思います。あちらを入れるとこちらに入れないといけないという話にもなりますし、全部を網羅することは大変です。

○委員

それらのイベントの情報は入らないのですか。

○事務局

ある程度の情報は入りますが、全てを把握するには少し工夫が必要になります。

○委員

重点施策の取り扱いにも絡みますが、他の団体等の活動に対して、情報を捕まえて市が共催を行う等、サポートをして盛り上げていくということも盛り込んでいくべきだと思います。

○委員

例えばロータリークラブやボーイスカウトやNPO法人もイベントを行っていますので、これらの団体のイベントも含めたら増えると思います。

○委員

そういう活動の情報を市がつかむだけでも非常に良いことだと思います。市が共催するなど工夫をすると思います。主催側も自分たちがやっていることを市が認知してくれるというのは喜ばしいことではないでしょうか。

○部会長

例えば他の課が把握しているデータは頂けるものなのでしょうか。NPOの担当の課から情報を頂くなど、できますか。

○事務局

可能です。

○委員

欲しいと言わないと向こうからは情報をくれないと思います。

○部会長

そこが難しいところだと思います。庁内連携も課題であるため、うまく連携できれば皆さんが言われていることも実現可能かもしれません。

○委員

把握できた情報だけでも市が関わっていくと、それを機会に情報が集まってくると思います。

○部会長

後援依頼というのも考えられると思います。

○事務局

我々から後援するというパターンは年間でそれほど数はありません。

○委員

進めていくと良いと思います。

○委員

比較的縦割りの世界です。縦割りというのは市役所の中もそうですが、外の団体と連携していくというのがあまり得意でない感じがあります。私は商工会議所ですが、市と商工会議所が似た取組みを並行してやっていることがあります。例えば豊中市は起業家を増やそうと取り組んでいて、商工会議所も似たようなことを実施していますが、連携がとれていません。協働で実施すれば効果が2倍にも3倍にもなりますが、できていません。市も外部の団体も、どこか難しいところがあるのかもしれません。

○部会長

庁内の問題もありますが、市民同士の問題もあります。それらについては一体的に考えないと難しいところがあります。今後どうしていくか検討の余地があると思います。

○委員

1万6千人という目標値が変わる可能性もあるのですか。

○事務局

もう一度その点については検討させてください。

○委員

公園に対する満足度の５８％も、６０％で良いと思いました。５８というのは端数があり、少し気持ち悪い気がします。みどりに対する満足度が７０％というのはきりの良い数字であります。５８％に特別な意味があるのでしょうか。

○委員

具体的な数字ではあると思います。

○部会長

委員が言われた他の団体との共催については検討の余地があるのでしょうか。

○委員

目標値はトレンドがどうなっているかというところを踏まえて再検討していただきたいです。

○部会長

もう一度検討していただいて、それでも変わらないこともあるかもしれないというご意見でした。

○委員

目標値が低すぎるのではないかと疑問にも答えていただく形になると思います。

○事務局

トレンドについてご意見が出ましたが、実はイベント参加者数は平成２７年と２８年は数字が下がっており、増加させる目標値を定めるために検討した結果、過去の５年間の傾向を見ることで、上を目指す目標値を定めたという経緯があります。つい最近、計画書の中に、みどりに関するイベント参加者数の推移のグラフを追加した方が良いという話が出てきたところです。今回は計画書に入れられなかったのですが、３４ページのところにイベント参加者数の推移に関するグラフを追加したいと考えています。

また、計画の評価は、決してイベント参加者数一つだけで決まってくるものではなく、他の目標値やモニター指標も活用して総合的に判定していきたいと考えていますので、その点もご理解頂ければと思います。

○部会長

わかりました。他に、よろしいでしょうか。

○委員

１点だけあります。基本方針２の中にある基本施策と具体施策についてです。普段街を歩いているときによく思うのですが、ここにはみどりがあったであろうなという施設や工場の前などで、みどりがなくなった空間が結構多いです。このページを読むと推進しますという言葉が多くあります。緑化は推進も大事ですが、維持管理、保全が必要だと感じます。最初はあったみどりが何年か何十年かすると放置されて枯れて無くなったりすることがあります。商業施設などの開発の際に市の指導の下ある程度みどりも作られていると思いますが、それが結局いろんな事情のなかで消失しています。経済的な事情もあるとは思いますが、それをもう少しこの文書の中で表してほしいです。学校における緑化の中で芝の養生など維持管理に努めますと書いてあるのが一か所だけです。後は推進します、努めますだけです。推進の中に維持管理が入っているとも読めますが、維持管理や保全なども言葉的に表現していただいた方が良いと思います。９０ページの中にある商業地における緑化の中では交付金や助成制度の話が出ていますが、それもすべて推進となっています。そもそも創出という項目が推進という言葉につながっていると思います。街中を歩いているとせっかくあったものがなくなっているところがよく見受けられます。市役所の駐車場も結構枯れ果てたエリアがあると思います。創出の基本方針に入れるのはおかしいかもしれませんが、公有地や民有地の緑化に維持管理などの言葉を入れてほしいです。

また、最後の最後に１４８ページに事業者などのみどりの保全などの言葉が出てきます。体制のところではなく、具体施策のところ示してほしいです。今更前に戻ってしまって申し訳ないです。

○部会長

計画の基本は守って育てていくことで、それは行政だけではできなくて民間も一緒にやっていかないといけないということではありますが、若干語尾の書き方を考えられないかというご指摘だと思います。これに関してはいかがでしょうか。

○事務局

緑化をしていただいたものに維持管理が必要ということで、これもセットで緑化の推進としているつも

りです。また、委員が言われたように、民有地だけではないですが、もともとあるみどりや緑化したものも含めてみどりの保全だと思います。大きなまとまりがあるところに対しては、具体施策の4番のところでも民有地の樹林樹木の保全も含めています。これから緑化をするところについては緑化をすると思いますが、緑化して保全していくという意味も込められていると思っていただきたいと思います。

今のご意見は、公有地と民有地どちらのお話でしょうか。

○委員

両方です。

○事務局

公有地については、成果が出ているところは保全の中身について示しています。しかし、国や大阪府のところは市の立場として維持管理しますという書き方はできません。ただし、維持管理を推進しますという書き方ができるか少し検討します。

○委員

民有地、公有地というよりは、民間施設、公有施設についての緑地が無くなっているという印象が受けられます。私が言いたかったのは施設についても、もう少し維持管理や保全の重要性について書いていただきたいということです。

○事務局

推進という言葉が維持管理や保全という言葉につながらないとのことについては検討していきますが、せっかくみどりになったものがなくなってしまうというのは私も感じる場所ですので、そういったところが伝わるように書かせていただいています。枯れてしまったところについてそこでやめるのではなくて一定の支援をするといったことは、今後、手厚くしていきたいと考えています。

○委員

3か所気になる場所があります。

1つめが52ページのみどりのまちづくりの重要な視点というところです。生物多様性に配慮したとありますが、この配慮したという言葉が気になります。同じ樹木ばかりでは生物多様性に欠けるので、そういう意味では配慮というのでも分かってはいるのですが、推進や促進ではなく配慮という言葉だと消極的に感じます。もっと直接的に書くことはできないでしょうか。

○事務局

ここは課題として挙げているところであり、課題のところでもそういった書きぶりをしていたところなので、ここは全体としてこういったことが求められているということを書いています。配慮しながら進めるというところではありません。

○委員

推進する取組が必要であるという言い方ではダメなのでしょうか。

○事務局

前段と表現を合わせたので、表現は検討させていただきます。

○委員

同じところで、先ほどの委員のご意見の延長で、まとまりのあるみどりは保全、まちなかは緑化と使い分けられている傾向があります。我々はどちらかというと保全の取組みですが、市街地は緑化しようとしています。この中でまとまりのあるみどりに創出という考えがありません。52ページ53ページの中で視覚的效果のあるみどりは創出が課題となりますが、これ以外に創出が課題に上がっていないことが疑問に感じます。

また、みどりの創出の向上については3つの丸の見出しで項目が分かれています。生物多様性も幾つかの項目に分かれてくるのではないかと思います。

それから52ページの「みどりの質の向上」の「みどりの役割の多面的な機能」というところについて、7ページに「みどりの役割」という同じような文書があります。この文書はみどりにいろんな機能があるという文書に読めます。様々なみどりがあり、その様々なみどりには、それぞれ特徴や役割があると思いますが、地球温暖化防止のための緑化とヒートアイランド現象緩和の緑化とは意味が違うので表現を変えた方がよいと思います。

また、6ページの記載についてわからないところがあるので教えていただきたいと思います。対象とするみどりの説明が4行あり、その下に緑地を分けた図があります。2行目までの説明は分かるのですが、3行目

の「これらと一体となったオープンスペースや屋上緑化などを含めた緑地をみどりの対象とします。」という説明で分からないところがあります。まずオープンスペースというのは公園なども含まれると思いますが、計画の後ろの方では花壇もオープンスペースとしています。オープンスペースの定義は何でしょうか。そして、「などを含めた緑地」の緑地というのは、みどりの定義の一部が緑地なのか、緑地は全部のものを包括して緑地としているのかわかりません。下の図を見るとみどりは全部緑地という表現でくくられた後、細かく分けていったら何々緑地と最後に緑地が付くようになっていますが、上の文書を見ると何々と何々を含めた緑地と表現されています。この緑地は一部のみどりをさしているのか全部を指しているのかどちらでしょうか。

○部会長

文書の表現を変えるということでしょうか。

○委員

6 ページは意味が理解できません。理解できたら表現についての意見も言えるので、意味を教えていただきたいです。みどりの役割については表現を変えた方が良いという意見でした。

○事務局

7 ページの表現を変えた方が良いとのご意見でしたがもう一度ご説明をお願いします。

○委員

7 ページの2行目から4行目の部分なのですが、この表現だとみどりは1個でその1個のみどりがたくさん役割を持っているというイメージになります。しかし、あるみどりはこういう役割があり、別のあるみどりにはこの役割があるものです。表現として、「みどりに様々なものがあり」などの文言を加えるのが良いと思いました。

○委員

大変難しいと思います。おそらくこの文書はみどり全般に機能があることを示している文書だと思います。樹林から樹木までいろんなタイプのみどりがありますが、そういうとらえ方のみどりもありますし、樹林でも所有者によって誰でも入れる樹林とそうでない樹林があり、所有形態などの話を含めて整理するのは難しいと思います。

○委員

そこまでの整理は求めています。

○委員

総体的なみどりはこの4つの機能をもっていますが、みどりにはいろんなみどりがあって特定のものを言っているわけではないと思います。

○委員

単純に1行目だけを読むとそう読めるか疑問なので、文書の表現を変えた方が良いという意見です。

○委員

みどりの種類と役割ということがわかるような形で書いてほしいということでしょうか。

○委員

そうです。

○委員

それはかなり難題だと思います。後ろの方でみどりの役割をかなり細かく整理していただいているのですが、これは4つの機能をすべて満足しているものもありますし、個別のものもあります。それを最初から書くのは難しいと思います。

○委員

うまく説明できなくて申し訳ないのですが、おそらく私がイメージしているものと委員がイメージしているものは違うと思います。

○委員

6 ページの緑地の表現について確認しておいてほしいことがあります。地域性緑地について

ですが、地域性の「性」は制度の「制」だと思います。そうしたときに法や協定、条例などで定めた緑地や河川・水路・ため池・農地・工場植栽地というのは違和感があります。ここは確定していただきたいと思います。

○委員

6 ページの回答を教えてください。

○事務局

6 ページは緑地がすべてにかかっています。緑地という定義がみどりの基本計画の策定にあたってのガイドブックにも示されているどの計画にも書かれているものです。地域制緑地もこのような書きぶりがされていますが、精査していきたいと思います。

委員のご意見の緑地とオープンスペースの部分についてです。オープンスペースは公共施設緑地の説明の4行目にも出てきますが、公共団体が設置する運動場やグラウンド、そして民間緑地のところでも3行目の企業グラウンドなど、みどりと隣接したところを含めて緑地という定義をしていてそれがみどりと示しているところです。読みにくいということであれば、表現を精査します。

○委員

下の図は、何かの定義を転記しているのでしょうか。それとも事務局が独自に作ったのでしょうか。

○事務局

本から転記したものが主です。

○委員

緑地の説明について半分はわかりました。オープンスペースはその一部のことでしょうか。そうであれば、オープンスペースはこのうちのどれなのか、何を示すのかどこにも書いていません。

○委員

一体となった空地や水面などの表現にした方が良いかもしれません。委員が言われるように唐突感があると思います。

○委員

2 行目の「のほか」がみどりにかかっているとこの文書では読み取れないので、「水面や」、「水面を含めた」、などAとBのほかという表現であればわかりますがA・Bほかという表現では緑地はどちらにかかっているのかわかりにくいと思います。表現を検討していただきたいです。

○事務局

文書については表現を検討していきます。

○委員

あと5 2 ページについて、配慮という表現と見出しを分けることについても検討をお願いします。

○部会長

時間的にも10分を経過し、議論も出尽くしたところですので以上で議題1は終わりにします。その他について説明があればお願いします。

2. その他

○事務局

委員から、希少植物の資料提供がありますので委員をお願いします。

○委員

私の団体で市民が中心となり、豊中市内の希少植物調査を行っていましたが、3月でまとまったので情報提供させていただきます。

現行計画でも、過去の中間報告をもって一部表記している箇所があるので、今回のまとめで数値を変更するかについては事務局と相談させていただきます。

○事務局

すでに反映させているところもあります。

○事務局

次回の日程について、市民説明会後の８月下旬頃を予定しています。改めて日程調整のご連絡をしますのでよろしくお願い致します。

○部会長

他にご意見がないようでしたら本日はこれで終わりにします。長時間ありがとうございました。

以 上